

条例に基づく認知症施策の推進（条例の 4 つの柱に基づく分類）

（1）予防及び早期介入

○WHO 神戸センターと神戸大学等による共同研究への協力

介護予防事業の対象者選定に用いる「基本チェックリスト」に回答した約 8 万人のデータやフレイルチェック結果データと、その後の要介護状態との、認知症関連の比較・分析を実施。本市はデータの提供等による協力・連携。

令和 3 年秋以降 論文公表予定

○認知症にやさしいまちづくり推進のための連携と協力に関する協定

〈医療産業都市にて実施〉

平成 28 年 3 月に、神戸市、先端医療振興財団（現：神戸医療産業都市推進機構）と日本イーライリリー株式会社の間で協定を締結。

※日本イーライリリー株式会社が理解促進・意識啓発のため、啓発ムービーを作成（平成 29 年 12 月）。

※エーザイ株式会社（平成 26 年 6 月）、第一三共株式会社（平成 27 年 2 月）と、認知症を地域で支えるまちづくりの連携や推進に係る協定を締結。

○フレイルチェック

薬局や集団健診会場において、フレイル予防の観点に基づいた「基本チェックリスト」、口腔機能に関する質問と握力等の測定を実施。

※令和 2 年度：828 人実施

○PET（陽電子放出断層撮影法）によるアルツハイマー研究 〈医療産業都市にて実施〉

アルツハイマー型認知症の特徴であるアミロイドβの蓄積を可視化し、認知症の早期診断や鑑別診断、治療効果の研究を実施

○KOBE もの忘れネットワーク

認知症に関する臨床研究を推進するため、認知症専門医等と臨床試験参加希望者とのネットワーク（KOBE もの忘れネットワーク）を構築している

※令和 3 年 7 月末現在：登録医療機関 25 か所

(2) 事故の救済及び予防

○認知症と診断された人による事故に関する救済制度

平成 31 年 4 月 1 日開始

※内容・実績については資料 5 を参照

○高齢運転者による交通事故の防止に向けて、移動手手段の確保その他地域での生活支援に努めるとともに、認知症の疑いがある人の運転免許自主返納を推進する。

- ・あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）や「認知症初期集中支援チーム」において、認知症の疑いがある人の自動車運転について家族等から相談に対応。
- ・認知症診断助成制度の認知機能検診（第一段階）において、受診者へ運転免許自主返納のリーフレットを渡している。
- ・令和元年 6 月～8 月に、マイナンバーカードの普及と併せた運転免許自主返納キャンペーンを実施（75 歳以上の方への受診券送付時（第 1 期）にキャンペーンのお知らせを盛り込んだ）

(3) 治療及び介護の提供

○あんしんすこやかセンターの認知症相談対応の充実

人件費として、平成 30 年度に引き続き委託料を増額

※令和 2 年度：136,800 千円（1 センターあたり 180 万円）

○認知症診断助成制度

平成 31 年 1 月 28 日開始

※内容・実績については資料 5 を参照

○医療介護サポートセンターの設置

医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談対応や多職種連携会議の開催など、地域での医療と介護の連携を支援

※平成 29 年度 全区設置

○認知症初期集中支援チーム

医療・介護の専門職が、認知症が疑われる人又は認知症の人やその家族を訪問し、観察・評価を行ったうえで、鑑別診断の紹介など適切な医療介護サービスにつなぐ。

※令和 2 年度：相談件数 170 件、訪問回数 2,097 回

○認知症疾患医療センター

令和元年5月より、認知症医療提供の拠点である認知症疾患医療センター（市内に7箇所設置）に臨床心理士、精神保健福祉士等の専門職を増員配置し、診断後の専門医療相談・日常生活支援相談を開始。

※令和2年度：相談件数 6,827 件

（うち相談内容に診断後の相談を含むもの 6,217 件）

○認知症サポート医の養成

かかりつけ医への助言、専門医療機関やあんしんすこやかセンター等への連携の推進役となる認知症サポート医を養成

※令和2年度末：累計 188 名

○かかりつけ医認知症対応力向上研修

認知症の初期症状に早期に気づき、必要に応じて適切な医療機関につなぐため、身近なかかりつけ医を対象に、認知症の診断・治療や地域との連携等について研修を実施

※令和2年度末：受講者累計 662 名

○病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修

一般病院勤務の医師・看護師等の医療従事者向けに、基本知識や医療と介護の連携の重要性、認知症ケアの原則等の知識について研修を行い、病院での認知症の人の手術や処置等の適切な実施の確保を図る。

※令和2年度末：受講者累計 279 名

○認知症介護研修

介護施設職員を対象に、認知症介護の知識・技術を修得させるための研修を段階的に実施。

※令和2年度末：受講者累計 5,260 名

（基礎、実践者、実践リーダー、介護指導者）

(4) 地域力を豊かにしていくこと

○「地域拠点型」一般介護予防事業

「地域拠点型」一般介護予防事業は、地域福祉センター等で週1回3～5時間程度、体操やレクリエーション、給食、専門職による介護予防講座等、様々なメニューを地域の特色にあわせて提供している。

※令和3年6月末時点：74地域（102ヶ所）

○つどいの場支援事業

高齢者の社会参加や生きがいづくりにより、介護予防に資する身近な地域の「つどいの場」を拡充するため、原則月1回以上、通年開催されるなど要件を満たす「つどいの場」を運営する団体に対して、会場費など運営費の一部を補助するものである。

※令和3年8月1日までに：計159団体に交付決定

○認知症カフェ登録事業の推進

認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが自由に参加し、気軽に相互交流や相談等ができる地域に開かれた集いの場を登録・紹介

※令和3年8月1日時点：33箇所

○地域包括支援センター単位での声かけ訓練の拡充

認知症の人の地域での見守り体制を構築するため、あんしんすこやかセンター単位（市内76センター）での声かけ訓練を実施する。

※平成30年度：36センターで実施

令和元年度：38センターで実施（うち新規18センター）

令和2年度：15センターで実施（うち新規10センター）

○認知症サポーターの養成

地域全体で認知症の人を見守るため、国が規定する研修を実施し修了者には認知症の人の理解者の証であるオレンジリングを配布。

※令和2年度末時点：受講者累計123,388名

（うち企業等29,064名、学校26,633名）

○GPS安心かけつけサービス

行方不明者の事故を防止する対策として、GPS等を活用した行方不明者の早期発見・早期保護のための取組みを推進する。平成31年4月1日受付開始。

※契約数は資料5を参照

○高齢者安心登録事業の推進

行方不明などの心配がある在宅高齢者が事前登録を行い、あんしんすこやかセンターや警察等と情報を共有するとともに、行方不明時には電子メールで行方不明発生情報を配信し、警察への情報提供を呼びかけ、早期発見と保護を目指す。

※令和3年7月末時点

登録高齢者：1,549名

メール配信：4件（令和3年4月～7月）

○認知症ケアパス

認知症の症状に応じ、いつ、どこで、どのような医療・介護等のサービスを利用できるかについて、各区で地域資源を整理してまとめたもの。

※平成30年度より全区版を発行

○認知症地域支援推進員の配置

認知症の相談対応に加え、認知症初期集中支援事業などにおいて地域の支援機関をつなぐコーディネーター役として、各あんしんすこやかセンター等に兼務で配置している。

※令和3年4月1日時点：114名

○行方不明者緊急保護事業

神戸市内の警察官により保護された身元不明の高齢者を、特別養護老人ホームに緊急かつ一時的に保護する。

※令和2年度：実績なし

○成年後見等の権利擁護

成年後見制度の利用が必要な方で、身寄りの無い方について、市長申立を行っている。また、成年後見支援センターの運営を市社会福祉協議会へ委託し、成年後見制度に関する相談や利用支援等を行っている。さらに、市社会福祉協議会内の、こうべ安心サポートセンターでは、権利擁護相談や、介護保険など様々な福祉サービスの利用手続きのお手伝いを行う「福祉サービス利用援助事業」を行っている。

※令和2年度：神戸市長申立件数 72件

令和2年度：成年後見制度に係る電話・来所等相談 1,105件

専門相談（再掲） 93件

令和2年度：福祉サービス利用援助事業 利用者数 589件

○その他普及啓発（主なもの）

（平成 30 年度）

- ・ 5 月 12 日『認知症の人にやさしいまち』講演会を開催
- ・ 「広報紙 KOBE」平成 30 年 5 月号に 3 ページに渡る認知症特集の記事を掲載
- ・ 認知症サポーター養成講座用に作成した DVD の配布・拡充
 - ※民生委員児童委員の全地区 173 枚、あんしんすこやかセンター76 枚等
- ・ 世界アルツハイマーデー（9 月 21 日）に関する普及啓発
 - ・ 記念講演会を「認知症の人と家族の会兵庫県支部」と共催実施（9 月 15 日）
 - ・ ライトアップの取り組み（9 月 21 日）
 - ※KOBE ライトアップ DAY（光のミュージアム）、明石海峡大橋、ハーバーランド（モザイク）の観覧車
 - ・ 展示、資料配布等
 - ※中央図書館 1 階フロア展示、兵庫県立美術館チラシ設置
- ・ 「広報紙 KOBE」平成 30 年 10 月号に条例改正のパブリックコメントに関する 4 ページの挟み込み記事を掲載
- ・ 上記内容のポスター及びリーフレットを各施設へ掲示
- ・ 認知症「神戸モデル」に関する特設ホームページを開設
- ・ 診断助成制度の開始に関して、駅構内のポスターや柱巻き広告、デジタルサイネージ、電車やバス車内の中吊り広告等、様々な広報媒体を用いて幅広く周知
- ・ 各団体向けの出前トークの実施
- ・ 「広報紙 KOBE」平成 31 年 1 月号に認知症診断助成制度の開始告知に関する記事を掲載
- ・ 「広報紙 KOBE」平成 31 年 2 月号に認知症診断助成制度の内容、実施医療機関名（住所・電話番号含む）に関する 4 ページの挟み込み記事を掲載

(令和元年度)

- ・ こうべオレンジダイヤルの開設（4月1日）
- ・ 「広報紙 KOBE」平成31年4月号に認知症「神戸モデル」の本格スタートとこうべオレンジダイヤルの開設について掲載
- ・ 出前トーク等を65回開催（3,136人へ説明）
- ・ 神戸モデルに関する他都市からの視察（19都市）
- ・ WHO神戸センター等を通じた海外への発信（6回）
- ・ 認知症「神戸モデル」のリーフレットを作成（英語版含む）
- ・ 世界アルツハイマーデー（9月21日）に関する普及啓発
 - ・ 記念講演会及び街頭啓発・キャンペーンを「認知症の人と家族の会 兵庫県支部」と共催実施
 - ・ ライトアップの取り組み
 - ※明石海峡大橋、ハーバーランド（モザイク）の観覧車
 - ・ 認知症に関する資料及び展示、配布
 - ※中央図書館、垂水図書館、北神図書館、西図書館で実施
- ・ こうべ福祉・健康フェアにおいて、認知症に関する展示及び資料配布（令和元年10月6日）
- ・ RUN伴兵庫2019^{*}への参加と街頭啓発キャンペーン（令和元年11月2日）
- ^{*} NPO法人認知症フレンドシップクラブ・RUN伴（ランとも）実行委員会が実施。認知症の人の参加と理解を目的に、当事者・家族・地域住民・医療福祉専門職等と一緒にタスキをつなぎ、日本全国を縦断するイベント
- ・ 神戸市北区しあわせの村 開村30周年記念事業としてこうべ市民福祉振興協会と「聞いて、見て、体験！認知症～神戸発！早めの診断で未来を変えよう～」イベントを実施。
認知症「神戸モデル」の講演及び認知症に関する啓発を実施（令和元年12月22日）

(令和2年度)

- ・ 「広報紙 KOBE」令和2年9月号に認知症に関する施策の特集記事掲載
- ・ 世界アルツハイマーデー（9月21日）に関する普及啓発
 - ・ ライトアップの取り組み
 - ※明石海峡大橋、ハーバーランド（モザイク）の観覧車 等
 - ・ 認知症に関する資料及び展示、配布
 - ※中央図書館、東灘図書館、垂水図書館、須磨図書館、新長田図書館、西図書館で実施
- ・ J:COM「兵庫つながるNews」（月～金 夕方5時30分～生放送）
9月21日の番組内でアルツハイマーデーについての特集を放送。